

**令和元年度 野田市心身障がい者福祉作業所  
指定管理者管理運営状況調書**

担当課 障がい者支援課

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①利用者の平等利用の確保	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①サービスの改善及び向上のための方策	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護のための方策	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されていること	①施設の安全管理についての方策	B	B	
	②緊急時の危機管理のための対策	B	B	
	③要望及び苦情への対応	B	B	
有効な生活介護の提供が図られていること	①生活介護のための方策	B	B	
有効な就労支援の提供が図られていること	①就労支援のための方策	B	B	
衛生管理が適切であること	①衛生管理のための方策	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い等の経理処理が適切に行われるための方策	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る収支見込について	B	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
雇用等への配慮が図られていること	①地元住民の雇用、物品及び役務の地元業者への配慮の方策	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置について	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	③人材育成の取組状況	B	B	

#### 総合所見

当該施設は、平成 18 年度より社会福祉法人野田みどり会が指定管理業務を運営し、平成 22 年からは利用料金制による運営を行っている。現指定期間（平成 29 年度から令和 3 年度まで）の 3 年目となる。

令和元年 12 月末現在、生活介護 33 名、就労継続支援 B 型 14 名が利用し、施設の管理運営についてはおおむね計画に基づいた運営がされている。職員配置について、生活介護における生活支援員が計画より少ない配置ではあるが、人員配置基準を超える人数で手厚い支援を行っており、サービスの低下はない。

収支状況報告においても、予算額と決算見込額に差があるものは人件費である。

社会福祉法人野田みどり会の経営状況については、30 年度分の資金収支内訳表を確認すると、法人全体の当期資金収支差額の合計が約 28 百万円の赤字となっているものの、こちらは昨年度で老人福祉施設の大規模改修を行ったための単年度の収支の悪化であり、今年度は黒字に回復することが見込まれることから経営は安定している。